

## 会議要録

会 議 名	旭町・明神町地区周辺まちづくり懇談会（第4回）				
日 時	令和3年（2021年）10月9日（土） 18:15～19:45				
場 所	学園都市センター第1セミナー室				
出席者氏名	参加者	◎ 西浦 定継	八王子市商店会連合会	深沢 靖彦	
	◎座長	○ 野澤 康	多摩信用金庫	岡本 彰子	
出席者氏名	○副座長	工藤 芳彰	東日本旅客鉄道株式会社	筑井 裕之	
		八王子商工会議所	宮瀬 睦夫	京王電鉄株式会社	小野 正浩
出席者氏名	事務局	拠点整備部長	中邑 仁志	市街地整備課主査	下平 忠幸
		市街地整備課長	大山 崇	市街地整備課主査	丹澤 智行
		市街地整備課課長補佐兼主査	曾我 浩司	市街地整備課主事	久野 麻里
		市街地整備課課長補佐兼主査	逸見 洋平	市街地整備課主事	内田 茉莉絵
出席者氏名	事務局	日建設計総合研究所	竹村 登		
		日建設計総合研究所	田 紳華		
議 題	1 前回以降の経過と今後の進め方について（共有） 2 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想について（意見交換） 3 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想アクションプランについて（意見交換）				
公開・非公開の別	公開				
非公開理由	-				
傍聴人の数	4人				
配付資料名	資料1 住民説明会の開催状況 資料2 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想改定の進め方 資料3 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想 改定版（素案）（案） 資料4 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想アクションプランの作成について				

### ■ 1 前回以降の経過と今後の進め方について（資料1、2）

【八王子市商店会連合会 深沢靖彦氏】

- ・ 住民の意見の要点を説明してほしい。

→ 【事務局】

- ・ 地域の意見が反映されていないのではないか、知らないところで何か動いていくのではないかといった意見や、構想を改定する時期やゾーンを変更する理由、構想改定により都市計画が変更されて固定資産税が上がるのではないかと問う声があった。街の価値の向上に合わせて構想を変える説明もできるのではという意見もいただいている。

- ・ 都合が合えば、次回の説明会に懇談会の参加者も、参加してほしい。

→ 【事務局】

- ・ 12月にパブコメを実施する予定で、市域全体を対象とした説明会を開催予定である。先んじて、11月に、構想の対象区域の方に向けた説明会を行う予定である。

- ・ 構想の対象区域内には、アパートやマンションの居住者が多く、昔から住んでいる人が少ない。両者のまちづくりに対する意識の差は大きいように思う。駅まちゾーンとなることで、用途地域が変更されるのではという懸念もあれば、まちが賑わうことを良く捉える方もおり、思いは様々。

## ■ 2 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想について（資料 3）

### ■土地利用の方針、ゾーニングについて（p8）

【八王子商工会議所 宮瀬睦夫氏】

- ・ 「融合市街地」という言葉は分かりづらい。以前の「生活利便複合ゾーン」の方が、生活に密着しているとイメージしやすく、理解できる。市民に分かりやすい言葉にした方が良い。

【拓殖大学 工藤芳彰氏】

- ・ 「利便」には、居住者と来街者のどちらに対する言葉か分からない。複数の意味に捉えることができない「融合市街地」は良いネーミングであり、違和感はない。融合市街地だけではなく、駅まちゾーンとセットで考えると、理解できる。駅まち融合市街地ゾーンにしたらよいのではないか。

【多摩信用金庫 岡本彰子氏】

- ・ 何と何が融合するのかこの言葉だけでは分からない。駅まちゾーンと市街地が融合するゾーンという説明があると、理解できる。

【工学院大学 野澤康氏】

- ・ 駅まちゾーンとの関連があれば理解できる。

【八王子市商店会連合会 深沢靖彦氏】

- ・ 2つのゾーンについて、地元は理解できていないのではないか。

【東日本旅客鉄道株式会社 筑井裕之氏】

- ・ 駅まちと市街地が融合するゾーンという説明を聞けば、ゾーンの名称の意味が理解できる。

### ■まちの将来イメージについて（p7）

【明星大学 西浦定継座長】

- ・ イラストが見えづらい。まちの将来がイメージしやすい表現となるよう工夫した方が良いと思う。

【八王子市商店会連合会 深沢靖彦氏】

- ・ 多摩産業交流センターが令和4年度中に開業予定で、広場もイメージではなく具体的な計画が出来ているべきではないか。あわせて、マルベリーブリッジの延伸や保健所前交差点の五差路の改良の検討も必要だと思う。

### ■都市基盤整備の方針（p9）

【東日本旅客鉄道株式会社 筑井裕之氏】

- ・ 歩行環境の整備の【取組】で、文末を「心地よく歩きたくなる空間づくり」とそろえた方が、駅まちゾーンと融合市街地ゾーンの取組内容の違いが分かりやすくなると思う。

## ■ 3 旭町・明神町地区周辺まちづくり構想アクションプランの作成について（資料 4）

### ■アクションプランとまちづくり構想について

【明星大学 西浦定継座長】

- ・ 次回の懇談会で、アクションプランについて議論する予定である。構想の実現に向けた検討が大事だと思う。多様な方の意見を反映し、広場であれば利用者の目線で検討していく必要がある。

【工学院大学 野澤康氏】

- ・ アクションプランの位置づけが分かりづらい。まちづくり構想の方針や整備にも、具体的な取組が書いてある。まちづくり構想の内容に対して、アクションプランの内容を流動的とするのであれば、構想に不足している内容を書いた方が良いのではないか。
- ・ 東放射線アイロードに面した街区と、その奥の街区ではゾーンの位置づけが違うのではないか。賑わいが生まれやすいのは、アイロードの方だと思う。
- ・ 開発が固まっていない中、具体的な取組は、広場整備と開発で生み出されるであろう歩道状空地のみである。例えば、一階部分の用途を全体的にコントロールして、人の往来の確保といった取組がなければ、構想を改定したとしても、まちはそこまで大きく変化しないのではないか。

【明星大学 西浦定継座長】

- ・ アクションプランとまちづくり構想との内容を整理したほうが良い。

→ 【事務局】

- ・ まちづくり構想では、駅や周辺街区を一体と捉えていくことが重要であり、この考え方のもと、広場や歩道状空を整備し、回遊したくなるような空間を創出していくことを目指している。また、目標や将来像、土地利用の方針などにおいても同様に、この考え方をベースにしている。
- ・ アクションプランについては、まちづくり構想の考え方や内容を踏まえて、検討を進めていきたい。

■八王子市のイノベーションまちづくりについて

【八王子商工会議所 宮瀬睦夫氏】

- ・ 国や東京都の上位計画をもとに検討するなら、八王子市のイノベーション創出まちづくりの定義も示す必要があるのではないか。

→ 【明星大学 西浦定継座長】

- ・ そうである。一方で、明確な定義がしづらい概念であると思う。
- ・ 市民が疑問に思うような表現は避けた方が良い。3 ページに緑とイノベーションを合わせた考え方を大阪府が示しており、例示があるとわかりやすくなると思う。

【明星大学 西浦定継座長】

- ・ まちづくり構想にも、八王子市の考えるイノベーションがある方が分かりやすいと感じる。
- ・ 交流することにより、新しいアイデアが生まれ、イノベーションが創出される土壤ができる。イノベーションを直接生み出すのは、ハードルが高い。イノベーションを生み出す土壤づくりとして、面的整備や枠組みを目指していると捉えている。

【拓殖大学 工藤芳彰氏】

- ・ 東京都の方針のもと、八王子市らしいことを行えば良いとは思う。ただし、そのためには、明確に方向性を出した方が良い。「公民連携」や「チャレンジを生み出す」ということがキーワードとしてあるため、八王子市としてオリジナリティのある表現をしたらよい。例えば民民連携でも良いし、学学連携等。そういったことが20年後のイノベーションにつながると思う。

→ 【明星大学 西浦定継座長】

- ・ チャレンジできる空間が、全体にちりばめられているとなおよいと感じる。

【京王電鉄株式会社 小野正浩氏】

- ・ 公共の場は、現状様々な規制が多い。チャレンジをどんどんできるように、市として全面的に打ち出す考え方も取り入れてほしい。人が集まるところで何か実験的なことをしたいと思う人や企業、団体は多いと思う。

【八王子商工会議所 宮瀬睦夫氏】

- ・ 例えば、フードフェスティバルは、ガスや水道がないため、多摩産業交流センターの前庭ではできない。広場は、使い方から整備を考える余地のある場所だと思う。
- ・ 東京都は多摩全体のことを考えているため、八王子市の切り口で具体的な検討を進めてほしい。